

博士(甲)論文審査及び最終試験結果報告書

2023年1月7日

人間環境科学研究科教授会 殿

論文審査及び最終試験委員

主査 庄山 光子 印

副査 本田 智理 印

副査 小崎 智照 印

副査 宇野 内 朝 印

論文審査及び最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

専攻及び課程	学籍番号	氏 名
人間環境科学専攻 博士後期課程	21dhe001	黒 木 ま ど か
審 査 論 文 題 目	印象評価に基づく歯と肌の色の色彩調和の検討	
論文審査及び 最終試験結果	(合) 否	
	審査基準項目別の審査結果	
	番号	審査基準項目
	1	学術上の創意工夫・新規性
	2	得られたデータの取扱いの適切さ
	3	先行研究の取扱いの適切さ
	4	論旨の明確性・一貫性
	5	表現・表記法の適切さ
	6	構成の体系性
		評価※
		A
		A
		A
		A
		A
		A
	(※ 各項目の評価は、A(優)、B(良)、C(可)、D(否)の4段階で行う)	
博士論文提出資格取得日	2022年10月5日	
博士後期課程退学日	年 月 日	

### 論文審査及び最終試験結果の要旨

本申請論文は、歯の色と肌の色の色彩調和に着目し、異なる歯の色と肌の色との組み合わせから受ける顔印象を調査し、歯科医療従事者や若年女性が歯の色を選択する場面で指標となる基準を明らかにすることを目的とした研究である。

まず、人々の歯科受診の実態を明らかにすることを目的に、20～69歳の一般成人男女を対象に、歯科受診についてインターネット調査を行い、206名から回答を得た。歯科受診の目的は、主に歯・口の痛みなどの機能的側面の回復で、審美的側面で歯科受診する割合は、女性の方が男性よりも高く、90%以上の男女は、前歯の黄ばみに不満を持ち、人々の口元の不満や悩みは審美的側面に起因していることを明らかにした。次に、歯科医療従事者の審美歯科診療の実態を明らかにすることを目的に、歯科衛生士を対象に、審美歯科診療についてインターネット調査を行い、100名から回答を得た。患者の審美歯科診療に対するニーズは、クリーニング、歯冠修復物、ホワイトニングの順に高く、75%が歯の色の選択に関わり、その内64%は、歯の色の選択は難しいと回答し、歯の色を客観的に選択する指標を求めていることを明らかにした。

これらの調査から、歯の色の選択基準の検討の必要性を示唆し、人々の肌の色に調和する歯の色を検討することを目的に、20～39歳の一般成人女性30名を対象に、4色の歯の色(VITAクラシカルシェード:OM1、A1、A3、A4)と4色の肌の色(青白、美白、標準、小麦)を組み合わせた16種類の女性モデル顔画像を提示し、歯と肌の色の組み合わせに対する調和・不調和、および22項目のイメージを調査した。さらに、汎用性の高い歯の色の選択基準を検討することを目的に、同様の調査を20～39歳の一般成人男性30名を対象に実施し、男女間の差異を検証した。女性の方が男性よりも明るい歯の色を高く評価し、暗い歯の色を低く評価することを認めた。因子分析の結果、「内面的魅力・外面的魅力」、「快活な魅力」の2因子が抽出され、2因子ともに歯と肌の色が同じ画像間で男女の平均因子得点に有意差はみられないこと、2因子を満たし各肌の色に調和する歯の色は、男女ともに、青白肌ではOM1、美白肌と標準肌ではOM1、A1、A3、小麦肌ではOM1、A3であること、また、2因子を満たし各歯の色に調和する肌の色は、男女ともに、OM1ではすべての肌の色、A1とA3では美白、標準、小麦肌であり、A4に調和する肌の色はないことを明らかにした。肌の色に調和する歯の色は、肌の色と同一トーンの調和又は類似トーンの調和関係にある色であり、肌の色よりも明度の高い歯の色であり、男女ともに共通していると結論つけた。

この結果は、歯科医療従事者やクライアントである若年女性が歯の色を選択する場面で活用できる。しかし、若年女性に限定される指標であることから、今後は、異なる世代の女性モデルや男性モデルに対し調査し、さらに汎用性の高い歯の色の選択基準の検討や審美歯科から予防歯科に発展させることを期待したい。

本研究は、クライアントと歯科医療従事者とのコミュニケーションをとる有用なツールになり、インフォームド・コンセントの徹底につながる重要な研究である。以上により、本論文は博士(人間環境科学)の学位授与に十分に値する。